



会津医療センターから

こんにちは！



【2】

附属病院副院長兼
血液内科学講座教授
大田 雅嗣

『血液疾患の治療拠点に』

血液内科、という診療科名には馴染みのない方も多いと思います。平成22年4月、旧県立会津総合病院に診療科を新設して丸7年が経ちました。この間、近隣の医療機関の先生から多くの患者さんを紹介していただきました。

①検査や健康診断で血球（白血球・赤血球・血小板）の数や形に異常があるといわれた、②貧血の治療をうけているがなかなか改善しない、③特にぶつけたわけではないのに“あざ”がしやすい④リンパ節が腫れていると言われた⑤体のタンパク質の異常を指摘された。このような場合に血液疾患の可能性があります。血液疾患を診断し治療するのが血液内科医の仕事です。

血液の病気は大きく3つに分けられます。①貧血＝鉄分の不足など栄養に問題があって生じる貧血、血球を造る“造血幹細胞”の異常による貧血、体の中で血球が壊されてしまう溶血性貧血など、②血液腫瘍＝血液細胞が腫瘍化した白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍、③出血性の病気＝止血に必要な血小板が減少する病気、凝固因子が不足して起こる血友病－などがあります。

これまで県内外の遠方の医療機関で治療せざるを得なかった血液の病気を会津で治療できるようになりました。どなたにでも最良の治療を受けていただくために病気や治療法の説明を十分に尽くしています。多職種のスタッフとともにチーム医療を実践しています。一緒に治療をしていきましょう。

特に血液腫瘍に関しては、従来からの抗腫瘍薬を使う化学療法のほか、最新の分子標的治療薬（癌細胞が増えるしくみをピンポイントでおさえる）も併用し治療にあたっています。難治性血液腫瘍に対する自家末梢血幹細胞移植も実施しています。外来で安全に実施できる癌治療（外来化学療法）も専任薬剤師、がん化学療法看護認定看護師、学会認定臨床輸血看護師が専門性を生かして応援します。

医療人との連携を深めながら、会津医療圏の血液疾患診療拠点として頑張っておりましてので気軽にご相談ください。